

プレスリリース 2008年11月11日

第41回東海テレビ文化賞

岡井 隆氏ら

4人に決定！

紹介番組：11月19日(水)午前10時55分から放送

(顕彰式は18日午前10時30分～東海テレビにて)

東海テレビ放送は、第41回東海テレビ文化賞の顕彰者を決定しました。同賞は、昭和43年の東海テレビ開局10周年に制定され、東海地方に在住または関係が深く、多年にわたり社会、文化、学術、産業などの各分野で功績のあった人や団体に贈られます。

正賞は置き時計、副賞は100万円で、顕彰式は11月18日(火)午前10時30分から名古屋市東区東桜1丁目14-27の東海テレビ放送本社で行われます。

また、顕彰者のプロフィールを紹介する「報道特別番組 平成20年東海テレビ文化賞 道一筋に」は11月19日(水)午前10時55分から放送されます。顕彰者の経歴と受賞理由は次の通りです。

<お問合せ> 東海テレビ放送広報宣伝部 052-954-1131

第41回 東海テレビ文化賞顕彰者

おかい たかし
岡井 隆 (80) < 現代短歌の創作活動で日本文学の振興
と普及に貢献 >

ふじもり かねあき
藤森 兼明 (73) < 中部地方の美術文化の向上に貢献 >

なべしま としたか
鍋島 俊隆 (65) < 薬物依存・認知症などの薬学研究と
臨床分野の指導・研修で国際的に貢献 >

かとう ただや
加藤 忠哉 (70) < 海洋環境改善技術の研究開発を推進し、
英虞湾の創生に貢献 >

おかい たかし
岡井 隆

昭和3年1月5日(80歳)

歌人、文芸評論家、宮内庁御用掛、歌会始選者、医学博士
現代歌人協会会員、歌誌「未来」編集・発行人

<現代短歌の創作活動で日本文学の振興と普及に貢献>

名古屋市出身。18歳で「アララギ」に入会し歌人としての活動を開始、故・土屋文明氏の選歌を受ける。慶應義塾大学医学部在学中に創刊に参画した歌誌「未来」は今も健在、自らが編集・発行人である。以来歌人・評論家、文学者としてこれまでに発表した作品は「ウランと白鳥」、「ヴォツェック／海と陸」はじめ多数に上る。昨年、全四巻の「岡井隆全歌集」や評論など、これまでの全業績を評価され「第45回藤村記念歷程賞」を受賞。

宮中歌会始選者として活躍するかたわら、昨年からは皇族に和歌の指導を行う宮内庁御用掛の重責も務める。単に歌人にとどまらず活動の範囲は幅広く、総合的に日本文学の振興・普及に果たした貢献は大きい。

医学博士でもある氏は昭和49年から平成元年にかけて国立豊橋病院で内科医長を15年間務める一方で、地元において文学活動を展開した。

また昭和59年から現在まで24年間・四半世紀にわたって、中日新聞コラム欄に毎日一編の詩歌を紹介し短い解説を付ける執筆活動を続けてきた。地域においても名古屋市内の「研究歌会」で若手の指導に尽力、文化センターで短歌の講師を務めるなど伝統文学の振興や後進育成に力を注いできた。

<略 歴>

- 昭和26年 慶應義塾大学 医学部在学中に歌誌「未来」創刊
- 30年 慶應義塾大学 医学部卒業
- 31年 北里研究所附属病院勤務
- 49年 国立豊橋病院内科医長
- 平成 元年 京都精華大学人文学部教授
- 5年 歌会始選者
- 19年 宮内庁御用掛(和歌)

<賞 歴>

- 昭和58年 迢空賞
- 平成 7年 現代短歌大賞
- 平成11年 第14回詩歌文学館賞
- 平成19年 第45回藤村記念歷程賞

ふじもり かねあき
藤森 兼明

昭和10年5月9日生（73歳）

洋画家、日展理事、光風会理事
金沢美術工芸大学講師

<中部地方の美術文化の向上に貢献>

わが国の現代の洋画壇を代表する実力画家として、日展・光風会を中心に活躍。華麗な人物描写には定評がある。名古屋市在住で出身は富山県。金沢美術工芸大学油絵科在学中から日展、光風展で受賞を重ねた。おもに人物画を手がけ、故高光一也氏に師事し薫陶を受ける。

美大卒業後、会社勤めを経て再び絵筆をとるが、渡米赴任しカトリックの洗礼を受けるなどした会社員時代の経験が現在の画風に影響を与えているという。

氏の作品は腰かけた女性像を中心に描く。近年は「聖と俗の間」をテーマに、現代女性の背景に中世キリスト教会絵画を配した一連の作品を創作。その作風は「人間の生きざまを強く感じさせる」と評価が高い。平成10年には彫刻や書の中堅作家らと共に「五黙会」を立ち上げ、分野を越えて地域の創作向上に取りくんだ。瀬戸市文化センターには個展開催を機に50号の大作が寄贈されている。平成16年に日展内閣総理大臣賞。続いて今年2月に日本芸術院賞を受賞した。受賞作「アドレーション サンビターレ」はきらびやかな宗教画と純白の女性を描き、うつろう人間の命と不滅で聖なるものを表現している。俗と聖の間で揺れ動く人間の姿を表現するのが「生涯追求できるテーマ」だという。母校の金沢美術工芸大学で20年間に亘って講師を続ける一方、光風会、日展の理事を務めるなど洋画壇の重鎮として中部地方の美術の発展に貢献している。

<略 歴>

- 昭和33年 金沢美術工芸大学油絵科卒業
- 34年 渡米（～38年）
- 62年 金沢美術工芸大学講師
- 平成 8年 五黙会結成
- 16年 光風会理事、日展評議員（平成20年理事）

<賞 歴>

- 平成11年 光風会展田村一男記念賞
- 13年 日展会員賞 14年 紺綬褒章
- 16年 日展内閣総理大臣賞
- 20年 日本芸術院賞

なべしま としたか
鍋島 俊隆

昭和18年4月9日生(65歳)

名古屋大学名誉教授、名城大学大学院教授

加入団体：日本薬理学会、日本神経化学会、The American Society for Neuro

専門分野：生物系薬学、神経化学、神経薬理学 science

<薬物依存・認知症などの薬学研究と臨床分野の指導・研修で国際的に貢献>

わが国の神経薬理学分野で最も活躍する代表的な一人。薬学界の向上に国際的に貢献した研究者に贈られる「米国健康薬剤師会 فرانケ・メダル賞」を、今年、日本人で初めて受賞した。氏は長年にわたって薬物依存症、認知症や精神疾患のメカニズム解明、治療薬の開発研究を推進している。

氏の業績はまず、認知症の有力な原因物質の一つとされているタンパク質「アミロイドβ」を実験用ラットの脳室内に投与し、動物モデルの作成に成功したことである。多くの研究者がなし得なかったこのモデルラットの確立は、発症と薬効作用のメカニズム解明に重要な知見を与え、有効薬の開発に新たな道を開いた。また氏は認知症に対するワクチンの開発研究に取り組んでおり、副作用を軽減して、臨床へ応用されることが期待されている。薬物依存症の治療研究についても文部科学省、厚生労働省のプロジェクトで研究リーダーを歴任。

一方、臨床現場における活躍も目覚ましい。米国はじめ海外の臨床現場へ日本の薬剤師を多数研修留学させ、逆に海外から薬剤師を全国の病院に招聘するなど幅広く活動し臨床業務の向上に努めた。平成12年、在任中の名大病院で、薬剤師が対応する外来が国内で初めて開設されたのも、その成果の一つである。氏は世界薬学連合(FIP)副会長を8年間務め、国際シンポジウムの開催や、各国の若手育成に尽力するなど世界的にも著名である。今回のメダル受賞はこうした業績を認められたもので、社会的にも高く評価されるべきものである。

<略 歴>

昭和43年 岐阜薬科大学薬学部卒業

48年 大阪大学大学院薬学研究科博士課程単位修得/名城大学薬学部勤務

53年 米国ミシシッピ州立大学客員助教授

平成 2年 名古屋大学教授、名古屋大学附属病院薬剤部長

7年 世界薬学連合(FIP)副会長

<賞 歴>

昭和62年 宮田専治学術賞

平成 7年 日本薬学会学術貢献賞

平成20年 米国健康薬剤師会フランケ・メダル

かとう ただや
加藤 忠哉

昭和13年4月24日生（70歳）

三重大学名誉教授 元(財)三重県産業支援センター 地域結集型共同研究事業研究統括
加入団体：米国化学会 日本化学会
専門分野：高分子化学

<海洋環境改善技術の研究開発を推進し英虞湾の創生に貢献>

真珠養殖の発祥地として知られる英虞湾に新方式で人工干潟やアマモの森を作り里海を取り戻す創生プロジェクトの研究統括として活躍。近年、英虞湾は海に捨てられるアコヤ貝の肉などで、富栄養化し赤潮の発生やヘドロ汚染が顕著になった。水を浄化する働きを持つ干潟は半世紀で7割が消え、真珠養殖業そのものが危機を迎えた。氏は、平成15年度から5年間（25億円）かけて実施された産官学の英虞湾再生プロジェクトを研究統括した。プロジェクトで人工干潟にアマモが発生し生物資源（カニ類）が回復するなどの成果を収めた。干潟には氏が開発したヘドロを無害化する浄化剤が使用されており、クウェートはじめ海外からも学者や政府高官が海洋浄化の先進地として現場を視察に訪れている。

海の環境再生は自治体が抱える重要な課題だが、氏の業績により沿岸土壌の低質改善技術などに大きな成果を見せ、技術基盤は着実に形成された。成果は国の報告書でも高く評価され、近隣地域の海洋環境浄化事業にも少なからず影響を与えた。現在、プロジェクト終了を受け、後継の事業が進められているが、環境保全を進める上で最も重要とされる地域住民との一体感が作られたことも氏の活動によるものとして評価は高い。この他、氏は環境問題の専門家として、三重県環境影響評価委員会会長、ゴミ処分場処理方式検討委員会委員長などを歴任し、地域の環境保全に貢献している。

<略 歴>

昭和42年 名古屋大学大学院工学研究科応用科学専攻博士課程修了
47年 西独マインツ大学物理化学研究所留学
48年 三重大学工学部工業化学科助教授
62年 // 工学部分子素材工学科教授
平成11年 // 工学部長
14年 三重大学名誉教授
15年 (財)三重県産業支援センター 地域結集型共同研究事業研究統括